



1



2



3

に、針葉樹型枠の脱型後のコンクリート化粧打ち放し面の仕上がりに対して最適な剥離剤の組み合わせの確認、打ち継ぎ部の形状や止水方法の確認を行った結果、パネル割

りやセパ穴の目立たない新しい風合いの打ち放しコンクリートを実現している。環境、機能面では、一見すべてコンクリートで内外装ができてい

ように見えるが、吸音防音などの機能にあわせて、床、壁、天井の仕上げ材を部分的に変える配慮が行き届いており、またそれがデザインになっていく。アリーナ壁面に穿った

- 1階多目的室
- 3階ランニングコース
- 南西側外観

丸穴を給排気、投光、自然採光などの環境調整機能に利用しているほか、ダブルウォールの内側躯体を躯体蓄熱に利用し、ダブルウォール最下部より機械換気で自然外気を取り入れ、外気冷房とナイトパージに利用している。外壁の丸窓サッシの面一納まり、打ち放し外壁ピロティ形状最下部の水切り処理、コンクリートの靴箱とペットボトル棚など、打放表現に対する執念を感じさせる力作である。

早稲田大学本庄高等学院体育館 概要

- 所在地 埼玉県本庄市栗崎239-3
- 建築主 (株)早稲田大学
- 設計者 (株)日建設計
- 施工者 戸田建設(株)
- 竣工日 2020年2月10日

- 敷地面積 63,077㎡
- 建築面積 2,417㎡
- 延床面積 4,465㎡

- 階数 地上3階
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造



詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2023 第64回BCS賞受賞作品》 WITH HARAJUKU / Entō / 大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備 / 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 / 京都市美術館(京都市京セラ美術館) / シェルター・インクルーシブプレイス コバル / 渋谷 パルコ・ヒューリックビル / 清水建設北陸支店新社屋 / 新宮市文化複合施設(丹鶴ホール) / 那覇文化芸術劇場 なはーと / 日本女子大学目白キャンパス再整備 / Port Plus / 丸紅ビル / ミチノテラス豊洲 / 早稲田大学本庄高等学院体育館



日建連表彰2023



第64回BCS賞

早稲田大学 本庄高等学院体育館

選定理由 【選考委員】
稲山正弘・篠崎 淳音 順二

一九八二年に開校した大久保山山頂の旧校舎が二〇〇七年の共有化により手狭になったことから、麓に三期計画で二〇一二年より新校舎を整備し、その三期で新体育館を新築したものである。

緑豊かな環境にあえて閉鎖系の建築を計画しているが、閉鎖系建築としての完成度は非常に高く、外観に独特の存在感と内部に印象的な空間性を創出している。

一階部分をセットバックし、アリーナの外周にコンクリート躯体のダブルウォールで挟まれ縦方向に六層に分割された回廊を設け、分割されたそれぞれの区画に、アリーナに差し込む太陽光や空調空気、音響の調整機能を持たせ、チャンバー、ダクトスペース、またランニングコースとして利用するという建築

計画上の特徴を与えている。

内外のダブルウォールに穿たれた丸穴開口の位置と数は、年間を通して外壁の丸孔開口から入る直射日光が内側の丸穴を通してアリーナまで直射が抜けにくい位置関係とし、同時に空調のための丸穴の必要開口面積と最適位置や、耐力壁としての構造計算と施工上の開口補強、配筋との調整などの要素を、パラメトリックに操作ができるプログラムを作成してシミュレーションを行い、最終的にはアリーナからの外部の感じられ方や外観上のバランスなど意匠的判断もあわせて決定している。その結果、建築デザインと環境機能の整合性が高い建築になっている。

施工では、ひび割れ誘発目地・打ち継ぎ目地なしの化粧打ち放しコンクリート施工に特に留意しており、モックアップにより事前検証し施工方法・手順を検討するとともに

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2023年で64回を数えました。